

主 文

本件上告を棄却する。

当審における訴訟費用は被告人等の負担とする。

理 由

被告人両名の弁護人宮田勝吉の上告趣意は、量刑の非難であり、被告人両名の各上告趣意第一点は、事実誤認の主張であり、同第二点は、違憲をいうが、所論強制の事実はこれを認むべき証拠が存しないから、その前提を欠くものであり（なお、所論警察における供述調書は判決に証拠として引用されていない。）、すべて、刑訴四〇五条の上告理由に当たらない。また記録を調べても同四一条を適用すべきものとは認められない。

よつて同四一四条、三八六条一項三号、一八一条により裁判官全員一致の意見で主文のとおり決定する。

昭和三〇年九月一五日

最高裁判所第一小法廷

裁判長裁判官	斎	膝	悠	輔
裁判官	真	藤		毅
裁判官	岩	松	三	郎
裁判官	入	江	俊	郎